

彩の歳時記

平成二十一年 十一月

林間煖酒焼紅葉 石上題詩掃緑苔

白楽天【772-846】

林間に酒を煖めむと紅葉を焼く 石上に詩を題せむと緑苔を掃く



唐の詩人、白居易(はつきよい)の有名な詩の一節。平家物語の中に、高倉天皇(後白河天皇)の第四子で中宮は平清盛の娘・徳子が、紅葉の季節、小役人が紅葉を敷き詰めるところを、朝、間違えて掃き清めてしまい、周りは逆鱗に触れると思っていたところ、『和漢朗詠集』の「林間に紅葉をたいて酒をあたためる」という詩の心を誰が教えたのか、風流なこと」と誉めたという逸話が収められています。和漢朗詠集は藤原道長の娘威子(いこの)入内の際に屏風絵に添えられ、のち、藤原公任の娘の結婚の引き出物にされました。下巻「祝」部に日本国歌『君が代』の原典が収められています。

十一月の異称

「霜月」は文字通り、霜が降る月の意。他に「食物月」の略説、「潤む月」が訛った説も。

十一月の暦

三日 文化の日「自由と平和を愛し、文化をすすめる」日。戦前は四大節の一つ、明治節(明治天皇の誕生日)。1948年に日本国憲法が公布された日。皇居では文化勲章の授与式が行われる。

七日 立冬【二十四節気】 この日より立春(二月四日)前日までが暦上の冬。

十二日 酉の市(一の酉) 縁起物の熊手は、鷲(わし)が獲物をわしづかみすることに擬えたともいわれる。 風わたる地はうす眼して冬に入る 飯田蛇笏【1885~1962】

二十一日 歌舞伎座開業記念日 1839年、木挽町(現在の東銀座)に開場した歌舞伎座は来年四月に建替えのため、休業し、五月に着工、再開場は平成二十五年の予定。



二十二日 小雪【二十四節気】 木々の葉は落ち、平地にも初雪が舞い始める頃。

二十三日 勤労感謝の日 作物の収穫に感謝する日。宮中では、収穫された新穀を神に供えて感謝する行事、新嘗祭(にいなめさい)が行われる。

一葉忌

小説家・樋口一葉【1872~1896】の忌日。二十三才で夭折した近代女流作家の嚆矢。代表作「たけくらべ」の舞台、台東区竜泉の一葉記念館では命日にちなみ「一葉祭」が開催され、二十一日~二十四日まで無料公開される。講演会やゆかりの地案内など。生誕地の碑が千代田区の内幸町ホール(内幸町一丁目)の入口脇にある。



二十四日 二の酉 吉原ではぐれし人や酉の市 正岡子規【1867~1902】

十一月の空

小春日和 日毎に寒さのつる時折に訪れる春のような暖かな日。 念力のゆるみし小春日和かな 虚子

十一月の歌

神田川 詞 喜多条忠 曲 南こうせつ



昭和四十八(1973)年、フォークグループ「かがや姫」の歌唱でヒット。当時ユーミン等ニューミュージックに対して、四畳半フォーク(1970年代に誕生した若者の貧しい暮らしを叙情的に描いた歌)と言われた。神田川は井の頭池を源に東へ流れ、台東区、中央区、墨田区の両国橋脇で隅田川に合流、都内の中小河川としては最大規模で、全区間にわたり開渠(かいきょ)上部が開いている川であることは極めて稀である。中野区末広橋にある公園に「神田川」の歌碑。

あなたはもう忘れたかしら 赤い手拭いマフラーにして 二人で行った横丁の風呂屋 一緒に出ようねって言ったのに いつも私が待たされた 洗髪が芯まで冷えて 小さな石鹸カタカタ鳴った あなたは私の体を抱いて 冷たいねって言ったのよ 若かったあの頃何も恐くなかつ